

シヨウリヨウイン 照了院 加賀藩主第十三代前田齊泰の子方嬪の法號。詳しくは照了院華貞智方童女。

シヨウリン 詔麟 ↓ズイガンシヨウリン 瑞巖詔麟。

シヨウリンジ 少林寺 金澤三間道に在つて、嵩巖山と號し、臨濟宗に屬する。貞享二年由來書に、當寺の開基は千岳で、寛永十五年傳馬町に小庵を結び、それを少林寺と名づけてゐたが、正保三年隱居屋敷を今の所に請ひ得て移り、承應二年重ねて前田利常から寺院を建立せられ、三年千岳は河北郡傳燈寺に轉住したとある。

シヨウリンジ 少林寺 金澤裏傳馬町に在つて、梅葉山と號し、曹洞宗に屬する。寺記に正保三年久昌寺三代存清の建立とする。別項少林寺千岳隱居の後を受けたのであらう。

シヨウリンジ 勝林寺 江沼郡右に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウリンジ 正林寺 能美郡宮竹に在つて、眞宗東派に屬する。初め法専坊といふたが、明治五年正林寺の寺號を得た。

シヨウリンジ 正林寺 石川郡金石に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウリンジ 定林寺 石川郡下林に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年六月寺號の公稱を許された。

シヨウリンジ 定林寺 鹿島郡中島に在つて、臨濟宗法燈派に屬する。初め當村殿山城主熊木左近が京師東福寺の月浦宗暹を請じて建立したに起り、將監の室亦東光院を寺側に造つた。後一たび中絶したが、元和中珠洲郡吉ヶ池吉祥寺の住僧明叔玄察之を再興して、

越中永見の國泰寺末とした。能登名跡志に、『定林寺と云禪寺あり。境内廣く、大木の松あまたあり。昔は七堂伽藍にして、本尊釋迦如来天竺傳來の靈像にて、色々奇瑞ありし事あり。其比は京都東福寺末院にて嘉曆元年の建立也。』とある。

シヨウリンジ 靜林寺 石川郡西蚊ヶ爪に在つて、眞宗東派に屬する。明治十一年八月寺號の公稱を許された。

シヨウリンジ 淨林寺 河北郡七里に在つて、眞宗東派に屬する。もと京都に居て淨林坊といふたが、明治廿五年今の地に移し、翌年寺號に改めた。

シヨウリイアハレミ 生類憐 (一)加賀藩一徳川幕府が生類憐の令を發したのは貞享四年正月に在るが、加賀藩は二月之を領内に傳達し、更に四月の法令中には、『一、鳥類畜類人の疵付候様成儀は、只今迄之通可相届候。其外友ぐひ又は己と病煩候計にては、不及届隨分養育いたし、主有之候は、返可申事。』一、主なき犬、晝は食物たべさせ不申様に相聞候。畢竟食物たべさせ候得ば、其人々之犬之様に相成、以後迄六、敷事と存、いたはり不申と相聞候。不届に候。向後左様之儀無之様に可相心得事。』一、犬計に不限、凡て生類、人々慈悲之心懸を元として、あはれみの心肝要之事。等の條項を含んでゐた。後八年十月、十三年七月にも亦之に關する令があつた。

シヨウレイイン 松嶺院 加賀藩主第五代

前田綱紀の室保科氏の法號。詳しくは松嶺院信巖宗正大禪定尼。

シヨウレンジ 正蓮寺 ショウ 能美郡輕海郷に屬する部落。郷村名義抄に、この村の領に正蓮寺があつたから名を得たといひ、又越登賀三州志には、中宮八院中の昌隆寺址は今不明であるが、或は今の正蓮寺村がそれで、正蓮寺は昌隆寺の誤でないかといつてゐる。

シヨウレンジ 青蓮寺 石川郡下柏野にあつて、天台宗に屬し、白林山と號し、楢本神社の別當であつたが、明治維新の際廢した。

シヨウレンジ 青蓮寺 鳳至郡東村八幡寺所藏大般若經卷五百七十八奥書に、『應永六年歲次己卯姑洗上旬風氣至郡上町野柳田村青蓮寺書寫畢執筆實宗』とある。今柳田にこの青蓮寺は存せぬ。

シヨウレンジ 松連寺 石川郡四十萬の善性寺藏弘治三年十月廿三日富樫加賀介晴泰の判書に、『四十萬村松連寺分之事、本寺松林院雖爲知行、毎年之禮儀數十年無是候間、所詮敬勝へ申付候。』と記すのは、四十萬に松連寺分の地があつたのを、善性寺の敬勝に知行せしめたとのことである。松連寺は、前記消息に本寺松林院とあるから、或は松林寺の謬であるかも知れぬ。

シヨウレンジ 稱蓮寺 鹿島郡田鶴濱に在つて、眞宗東派に屬する。もと赤浦に居たこともある。

シヨウレンジ 成蓮寺 鹿島郡小島に在つて、日蓮宗に屬する。永和二年日便の草創といふ。

シヨウレンジ 淨蓮寺 石川郡松任に在つて、眞宗東派に屬する。初め同郡宮保に創立

し、慶安四年松任に移つたといふ。シヨウレンジ 淨蓮寺 羽咋郡吉田(今北吉田)に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウレンジ 淨蓮寺 羽咋郡原に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウレンジ 淨蓮寺 鳳至郡浦上に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウレンジイシ 正蓮寺石 九谷燒の原料に供するもの。能美郡正蓮寺より出で、分解作用を受けた石英粗面岩の尙岩脈をなすものである。

シヨウレンジ 徐芸 ↓ゾウザンシヨウ 象山徐芸。

シヨガクザンシツキヨウ 諸嶽山十境 鳳至郡門前なる總持寺附近の風光を數へたもの。高雄樵煙・慈雲夏雨・瑤池秋月・鶴峰夜雪・首山朝嵐・鬼溪彈流・南嶺殘照・龜阜遠帆・三松龍燈・定巖春苔(これである)。

シヨカザツワシユウ 諸家雜誌集 一冊。大坂陣、江戸の老中、前田家等の說話を集録したもの。後人書寫の際の小序に天保十二年平澤庸と記してある。

シヨカシブン 諸家詩文 一冊。加能越の學者の詩文、並びに藩に關することに付いての文を集めたものである。

シヨカシラケイフ 諸頭系譜 十七卷。人持以上の職十七品、頭分以上三十六品、番頭以上兼役十五品、御異風以上七十五品、御大工頭以上十品、合計百五十三品の諸職に任せられたる加賀藩士の姓名・任免年月・身分等を記したもので、文化六年五月木村信尹の著。同七年六月津田鳳卿の序文がある。但し内容は安政頃まで書繼がれてゐる。この書は前記